土木学会第52回年次学術講演会（平成９年９月）

Ⅳ－239

地域住民、転出者、来訪者からみた岩手県中山間地域における町のイメージ構造
～岩手県軽米町を対象として～

岩手大学　正員　安藤　昭
㈱オオバ　○正員　入江　大介
岩手大学　正員　赤谷　隆一
岩手大学　正員　佐々木　栄洋
昭和土木設計　正員　佐々木　克彦

1　研究の目的

地域の魅力ある環境醸成のために、景観からのまちづくりが盛んに行われており岩手県においても59全市町村で景観マスタープランやガイドラインが策定されている（平成８年度現在）。しかし、マスタープランやガイドライン策定のための基礎となるイメージ調査が行われている場合が少ない。なかでも、町村景観を、開かれたそして美しく個性的な景観として育成してゆくことを考えると、地域住民のイメージの把握だけでは十分とはいえないと思える。

本研究は、岩手県中山間地域に位置する軽米町を対象に、地域住民、来訪者・転出者の３者を主体とするイメージ調査を行い、軽米町のイメージ構造を明らかにしようとするものである。

2　ローカルイメージモデル

町のローカルイメージの立体モデル（キュービックモデル）を図－１に示す。これは、縦方向に住民のイメージの強度を、横方向に転出者のイメージの強度を、そして高さ方向に来訪者のイメージの強度をとり、３者の地域に対するイメージの強さの関係を立体的にモデル化し表現しようとするものである。例えば、領域Aは住民、転出者、来訪者が３者共通に強いイメージを抱くものが含まれる領域であり、領域Bは住民と転出者には強くイメージされるが、来訪者には弱くイメージされるものが含まれる領域を示す。このA～Hの８領域によってローカルイメージのおよその構成を描き出すことができる。

3　調査概要

調査の対象地とした軽米町は、岩手県最北端部に位置し、総面積245.7Km^{2}でその約８割が、山林原野で占められ、平均200～300ｍの標高地帯に大半の集落、田畑が集中した農林畜産業を中心産業とした山間地である。人口は13,217人である。

住民、転出者、来訪者の３つの主体に対するイメージ調査は軽米町の刺激語(30語)を用いて被験者に連想チェーンをつくらせる制限イメージ連想法によった。

調査に用いた刺激語は、既に行われている軽米町の言語記述によるイメージ調査の結果と役場職員4人によるブレーンストーミングの結果を基に選定したものである。

被験者別の属性、調査期間、調査手法を表-1に示す。

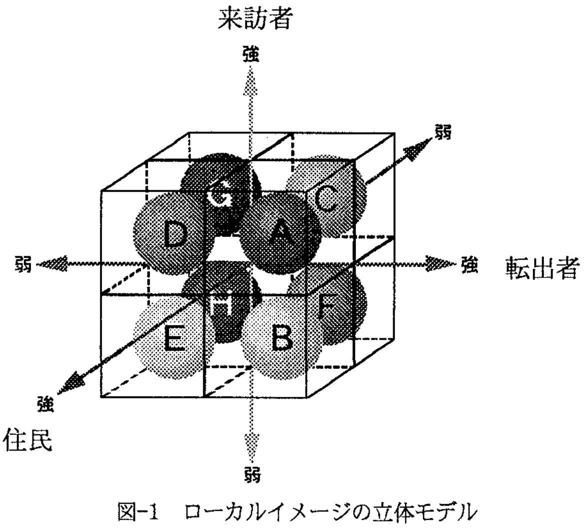

図-1　ローカルイメージの立体モデル

表-１　被験者別個人属性

被験者	男	女	合計	調査期間	調査手法
住民	54人	84人	138人	平成７年７月30日～８月５日	直接面接法
転出者	34人	14人	48人	平成８年11月２日～11月30日(郵送)	郵便調査法
来訪者	45人	5人	50人	平成９年１月16日～２月14日	直接面接法

4　分析結果

縦軸にイメージウェイトをとり連想階層図を図-2（住民）、図-3（転出者）、図-4（来訪者）に示す。図の矢印は各言語のイメージ連想を示し、枠はクラスター分析によるまとまりを示している。図-2に示されるように、住民においてイメージウェイトが高い要素として「雪谷川」「フォリストパーク」「ミレットパーク」「軽米秋まつり」「折爪岳」等があげられる。転出者においてイ

キーワード：住民、転出者、来訪者、イメージ、中山間地域
岩手大学工学部建設環境工学科　　〒020　岩手県盛岡市上田4-3-5　TEL019-621-6453　FAX019-621-6460

メージウェイトが高い要素は「雪谷川」「たばこ畑」「ひえ」「田」「ホップ」「軽米秋まつり」等があげられ（図-3）、来訪者では「ひえ」「たばこ畑」「ホップ」「田」「フォリストパーク」等があげられている（図-4）。また、住民と転出者においては、『雪谷川-フォリストパーク』『ミレットパーク-折爪岳-岳の湧口』のように空間的な連想により結び付いているのに対し、来訪者では『フォリストパーク-ミレットパーク』『雪谷川-瀬月内川』といった意味的な連想により結び付いている。

5　まとめ

軽米町のイメージ調査の結果を先のキュービックモデルにあてはめると以下のように示される。

（1）３主体共にイメージが強い領域Aに含まれる要素は今回の調査ではあげられなかった。

（2）住民と転出者に強くイメージされる領域Bには「雪谷川」「軽米秋まつり」等、町の骨格をなす要素や文化・歴史に関わる要素があげられている。

（3）転出者と来訪者に強くイメージされる領域Cには「ひえ」「たばこ畑」「ホップ」「田」等、農村地域の原風景に関わる要素があげられている。

（4）住民と来訪者に強くイメージされる領域Dには「フォリストパーク」があげられ、これは新しく作られた要素である。

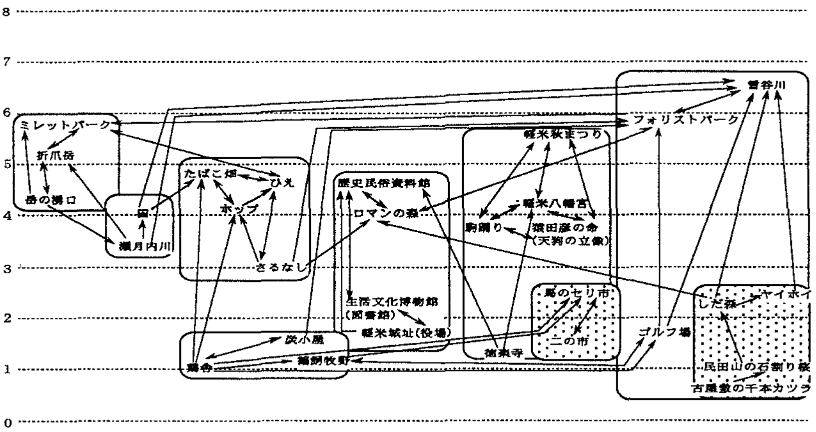

図-2連想階層図　　住　民

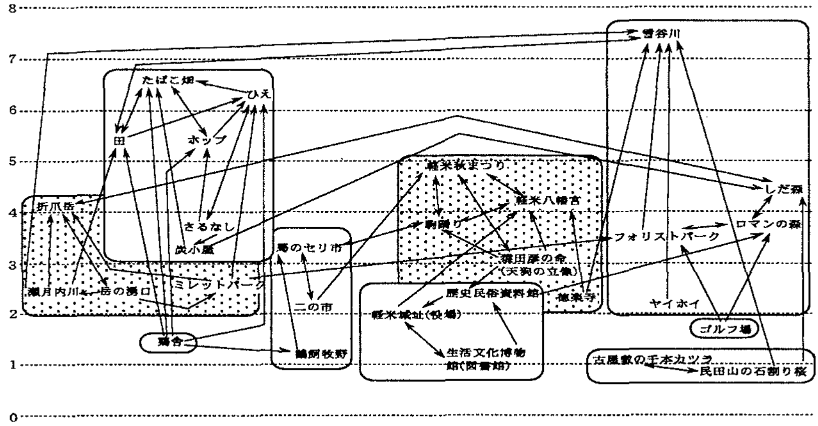

図-3連想階層図　　転出者

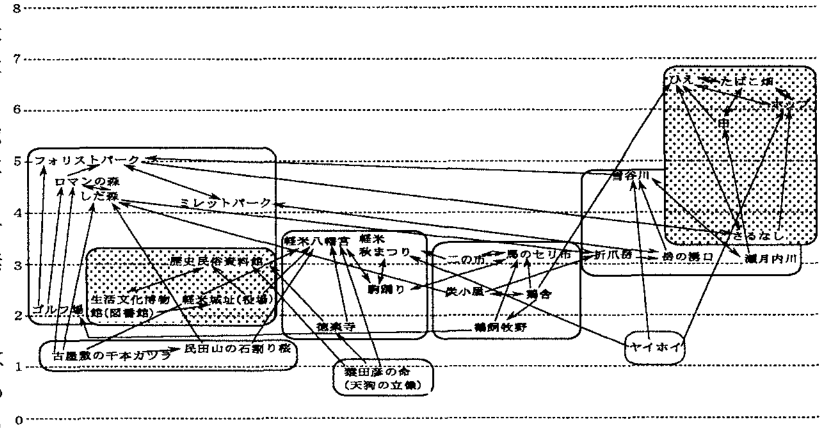

図-4連想階層図　　来訪者

今後事例を増やし、提案するキュービックモデルの構造を明らかにしてゆくつもりである。

参考文献

1）細江達郎・大江篤志・堀毛一也・今城周造、社会心理学、新曜社、1990
2）赤谷隆一・安藤昭・五十嵐日出夫、脳機能を科学的基礎とした都市景観設計の体系化に関する研究、土木学会第46回年次学術研究会講演概要集第４部、p.p.486-487、平成3年
3）堀田治、文学を利用した地域計画手法に関する基礎的研究、京都大学修士論文、1989